

名前：

インターネットが新聞や雑誌に取って替わることには今後一切ないとは私は考えています。でもたいていインターネットが普及しようとしても、私たちの生活から本が消えることはないでしょう。というのも、紙に書かれた情報は、インターネットで得た情報に比べて記憶に残りやすく、また手にとって見ることで、その傾向は一層顕著になるからです。

更にインターネットには様々なデメリットがあります。違法サイトやその良い面です。現代の日本でも、新聞VSインターネットの論戦が多くありましたが、そもそも過激になりがちでインターネット上の世論を、けん制する働きが、新聞など既存のメディアにはあると思っています。

一方で、電子ブックや小型情報端末を利用した雑誌に代わるものが登場してきていますが、それが雑誌を駆逐するとは到底考えられません。先程も述べた通り、雑誌には手にとって情報を集めることができるという、利

点があります。それに、例えば情報弱者と呼ばれるお年寄りや子供たち、パソコンに余り慣れていない人たちに、星の数ほどあるインターネットのサイトの中から、自分の好みにあったものを探し出すことができるでしょうか。本屋にぶらりと立ち寄り、目に入ってきた雑誌を手に取り、眺める方がはるかに楽だとは思いませんか。

インターネットを使いたい人はインターネットを使えばいいでしょう。でもか、それによって既存のメディアが無くなることはありえません。Eメールが登場して確かに便利にはなりましたが、手紙を出すという古来からの習慣はなくなっていません。そのことからも、私たちは利便性だけでは押し図りない何かを必要としているのです。それは情緒であったり、感性であったり、原始的なものであるかも知れませんが、そこには私たちが忘れてはならない、大切なものがあつた。と私は思うのです。

1800字